



株式会社ELEMENTS | 2026年1月

2025年11月期 4Qおよび通期決算説明資料

ハイライト

		売上高	EBITDA ^(※1)	営業利益	親会社株主に帰属する 当期純損益
財務 ハイライト	FY25 Q4	1,173百万円 (前年同期比: +70%)	51百万円 (前年同期比 +6百万円)	▲78百万円 (前年同期比 ▲26百万円)	▲77百万円 (前年同期比 +17百万円)
	FY25 通期	3,895百万円 (前期比: +53%)	270百万円 (前期比 ▲73百万円)	▲215百万円 (前期比 ▲272百万円)	▲700百万円 (前期比 ▲568百万円)
	<ul style="list-style-type: none"> ● ポラリファイ連結化及びLUQID eKYCの好調に伴い、中期目標のCAGR30%増収ペースを大幅に超過 ● 一時的に費用が増加するもポラリファイのPMIは順調に推移し、10月に単月営業利益黒字化を達成 ● アドメディカに係る特別損失の発生により、親会社株主に帰属する当期純損益は▲700百万円で着地 				
各種トピック		<ul style="list-style-type: none"> ● ポラリファイのPMI進捗・今後の営業利益推移イメージ ● 経産省傘下の産業技術総合研究所（産総研）との共同プロジェクト ● アドメディカ社の解散に係る株主資本への影響 ● 2026年11月期通期業績予想を開示 			

※1 EBITDA=営業利益+減価償却費（有形・無形固定資産）+株式報酬費用+のれん償却額

2025年11月期の振り返り

- 2025年11月期も、期初の基本方針に沿った事業展開を実現。
- 財務目標についても、**売上高成長率53%**を実現し、利益面においてもポラリファイPMIが順調に進んだことで、**業績予想レンジの上限を達成**

	2025年11月期方針	方針に対する評価
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 中期的な利益拡大を最大化するための助走時期 <ul style="list-style-type: none"> ・ LIQUIDシリーズにおける高付加価値ソリューション拡大とポラリファイのPMI ・ 「第2の柱」として位置付けるプロダクトへの投資継続 	<ul style="list-style-type: none"> ● パスキー（FIDO2）を用いた多要素認証ソリューション「LIQUID Auth（パスキー）」の提供開始 ● ポラリファイ営業利益の単月黒字化の達成 ● プロダクト投資：「LIQUID Auth」「AiQ Permission」「ELEMENTS CLOUD」の進展 ● 人材投資：前期末比で正社員人数+14名
財務目標 ^(*1)	<ul style="list-style-type: none"> ● 全社売上：3,815～4,000百万円（対前年比：+49～57%） ● EBITDA：150～275百万円（対前年比：▲56～▲19%） ● 営業利益：▲325～▲225百万円 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全社売上：3,895百万円（対前年比：+53%） ● EBITDA：270百万円（対前年比：▲21%） ● 営業利益：▲215百万円

*1 EBITDA=営業利益+減価償却費（有形・無形固定資産）+株式報酬費用+のれん償却額

目次

2025年11月期 4Qおよび通期業績ハイライト

各種トピック

2026年11月期 事業方針

Appendix

2025年11月期 第4四半期業績 業績ハイライト（四半期）

（百万円）

ポラリファイの連結化に加え、LIQUID eKYCの好調に伴い、売上高は前年同期比で+70%となる1,173百万円と過去最高を更新。

売上総利益率は、ポラリファイの連結化に伴い74.9%に低下。（ポラリファイ連結前の売上総利益率：86.4%）

販売費および一般管理費は958百万円、ポラリファイの連結化（198百万円）およびポラリファイM&A関連費用(38百万円)^{(*)2}一過性の費用発生等の影響を受け、前年同期比で+51%の増加。

上記の結果、EBITDAは51百万円と黒字へ回復し、前年同期比とほぼ同水準となったものの、営業利益は▲78百万円の赤字。アドメディカ社解散に係る計上を実施した結果、親会社株主に帰属する当期純損益は▲79百万円の赤字にて着地。ポラリファイM&A関連費用を控除したEBITDAは62百万円の黒字、営業利益は▲41百万円の赤字。

	FY24Q4 実績	FY25Q4 実績	前年同期比	
売上高	688	1,173	485	+70%
（個人認証売上高）	679	1,163	484	+71%
売上総利益	584	879	295	+51%
売上総利益率	84.9%	74.9%	▲9.9%	-
販売費および 一般管理費	637	958	321	+50%
EBITDA ^{(*)1}	45	51	6	+13%
営業損益	▲52	▲78	▲26	-
親会社株主に 帰属する 当期純損益	▲94	▲79	15	-

*1 EBITDA=営業利益+減価償却費（有形・無形固定資産）+株式報酬費用+のれん償却額

*2 PMI関連費用および決算期の相違に伴う一時費用、並びにのれん償却額の合計

2025年11月期 通期業績 業績ハイライト（通期）

（百万円）

ポラリファイの連結化に伴い売上高は、前年同期比で+53%となる3,895百万円。中期目標のCAGR+30%(22/11期起点)を大幅に超過しての着地。

売上総利益率は上部記載を主因に、前年同期比で▲8.3ptとなるも77.5%を確保。

販売費および一般管理費は同+52%の3,233百万円。

上記の結果、EBITDA**270百万円**、営業損益は**▲215百万円**。親会社株主に帰属する当期純損益はアドメディカ社の減損影響にて**▲700百万円**の赤字で着地。

ポラリファイM&A関連費用を控除したEBITDAは**379百万円**と前期を上回る水準、営業利益は**▲52百万円**の赤字。

	FY24 通期累計	FY25 通期累計	前年同期比	
売上高	2,545	3,895	1,350	+53%
(個人認証売上高)	2,509	3,853	1,344	+54%
売上総利益	2,183	3,018	835	+38%
売上総利益率	85.8%	77.5%	▲8.3%	
販売費および一般管理費	2,125	3,233	1,108	+52%
EBITDA ^(*1)	343	270	▲73	▲21%
営業損益	57	▲215	▲272	-
親会社株主に帰属する当期純損益	▲132	▲700	▲568	-

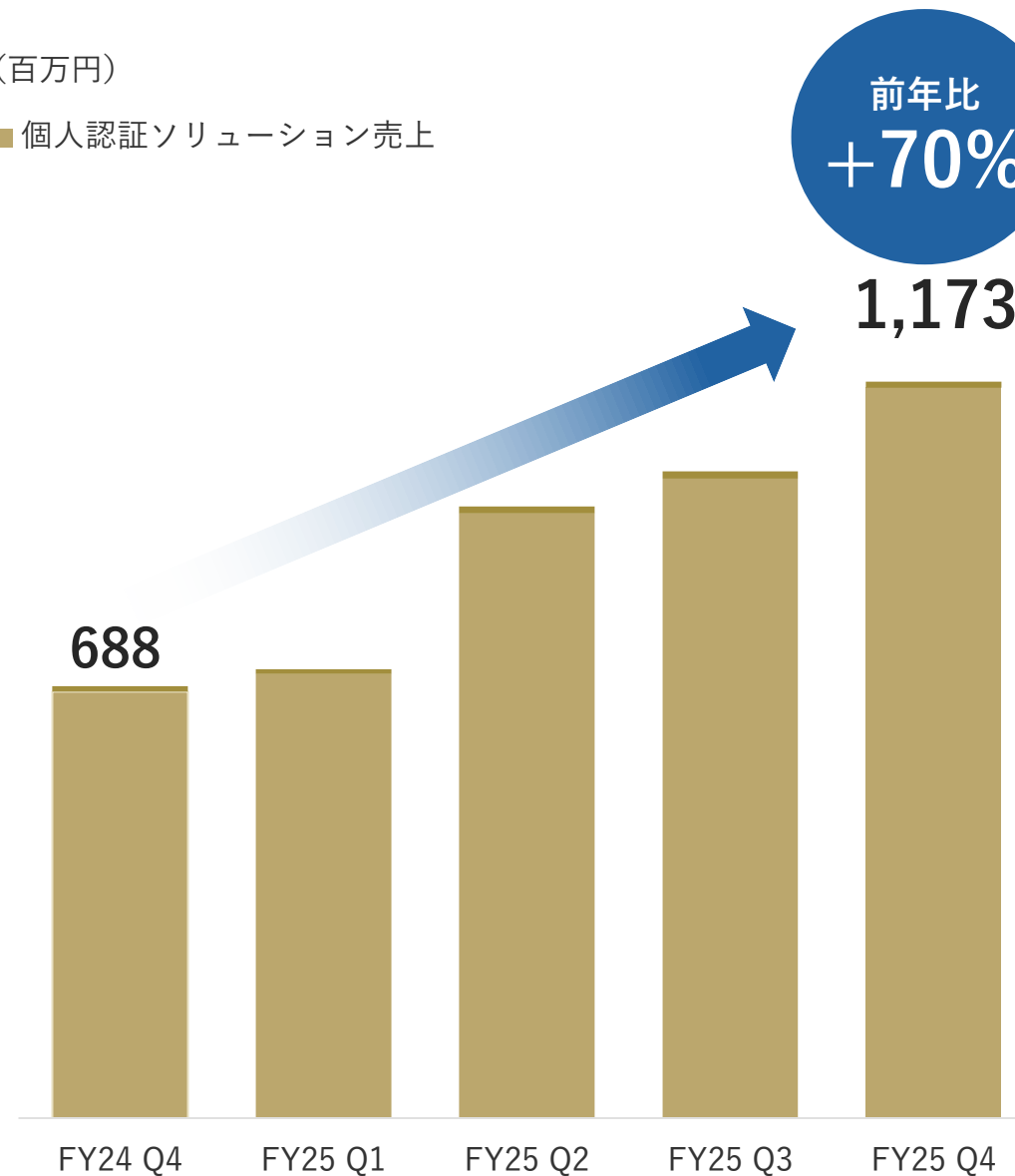
*1 EBITDA=営業利益+減価償却費（有形・無形固定資産）+株式報酬費用+のれん償却額

2025年11月期 第4四半期業績 売上について

ポラリファイの連結取込開始の影響および
LIQUID eKYCの売上増により、**前年同期比で
+70%となる1,173百万円で着地。**

(百万円)

■ 個人認証ソリューション売上

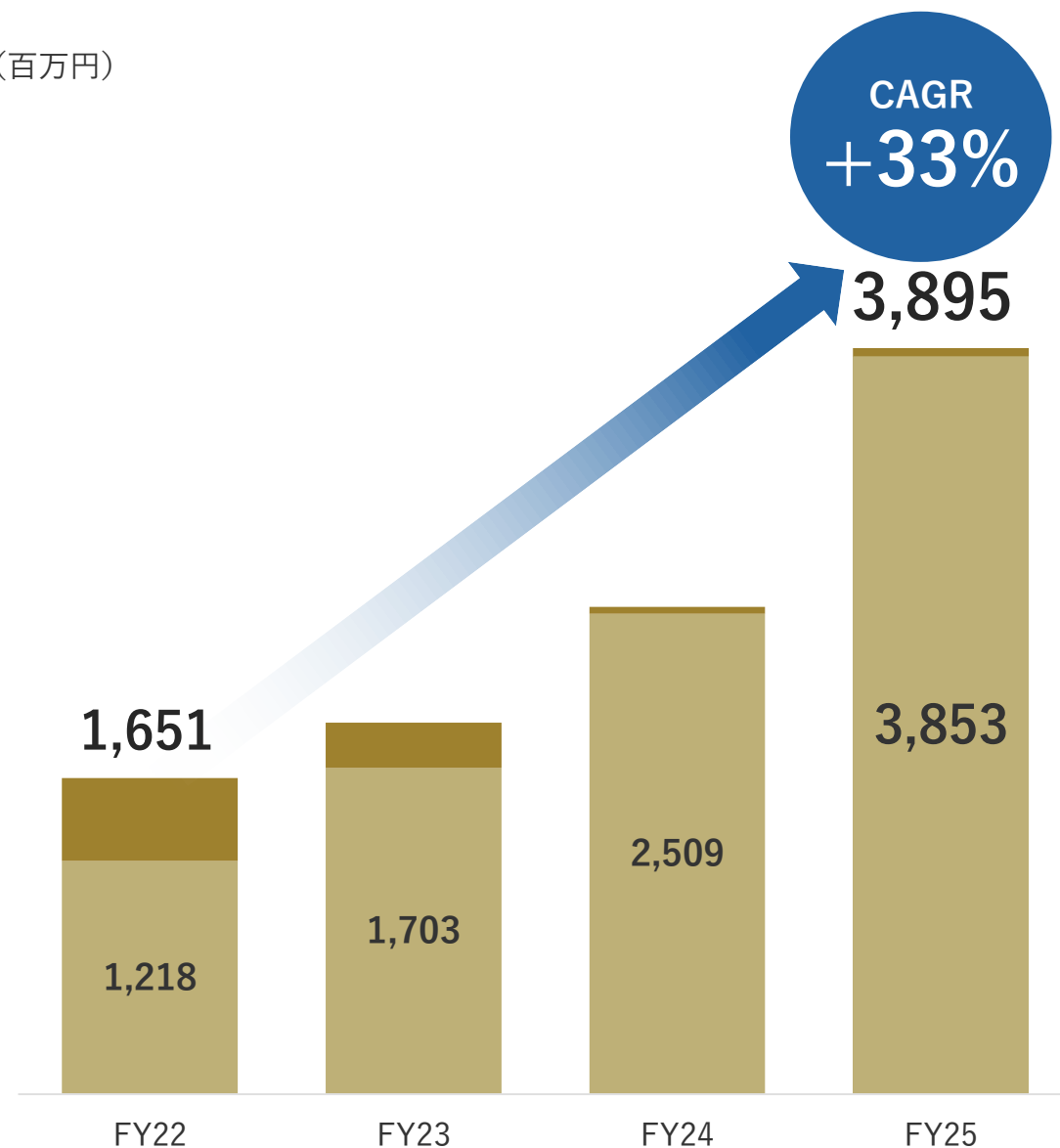


2025年11月期 通期業績 売上について

2025年11月期通期の
売上高は3,895百万円で**CAGR+33%の成長**を達成。

個人認証ソリューションの売上高は
3,853百万円で**CAGR+46%の成長**を達成。

(百万円)

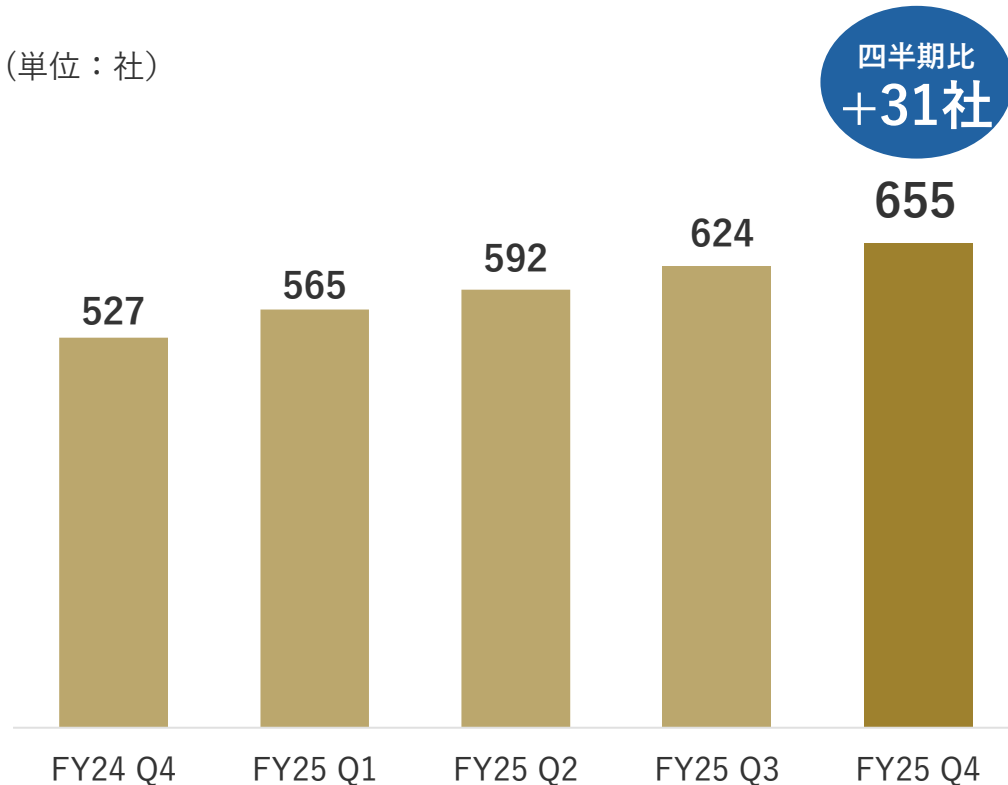


個人認証ソリューション主要トピック（1）累積契約社数推移/認証回数推移

- 2025年11月末時点のグループ全体の累計契約者数は**前四半期比+31社の655社**まで拡大
- 認証回数も、**Liquid・Polarifyの合算で1.5億回**を突破

累計契約社数（合算）

（単位：社）



認証回数（合算）

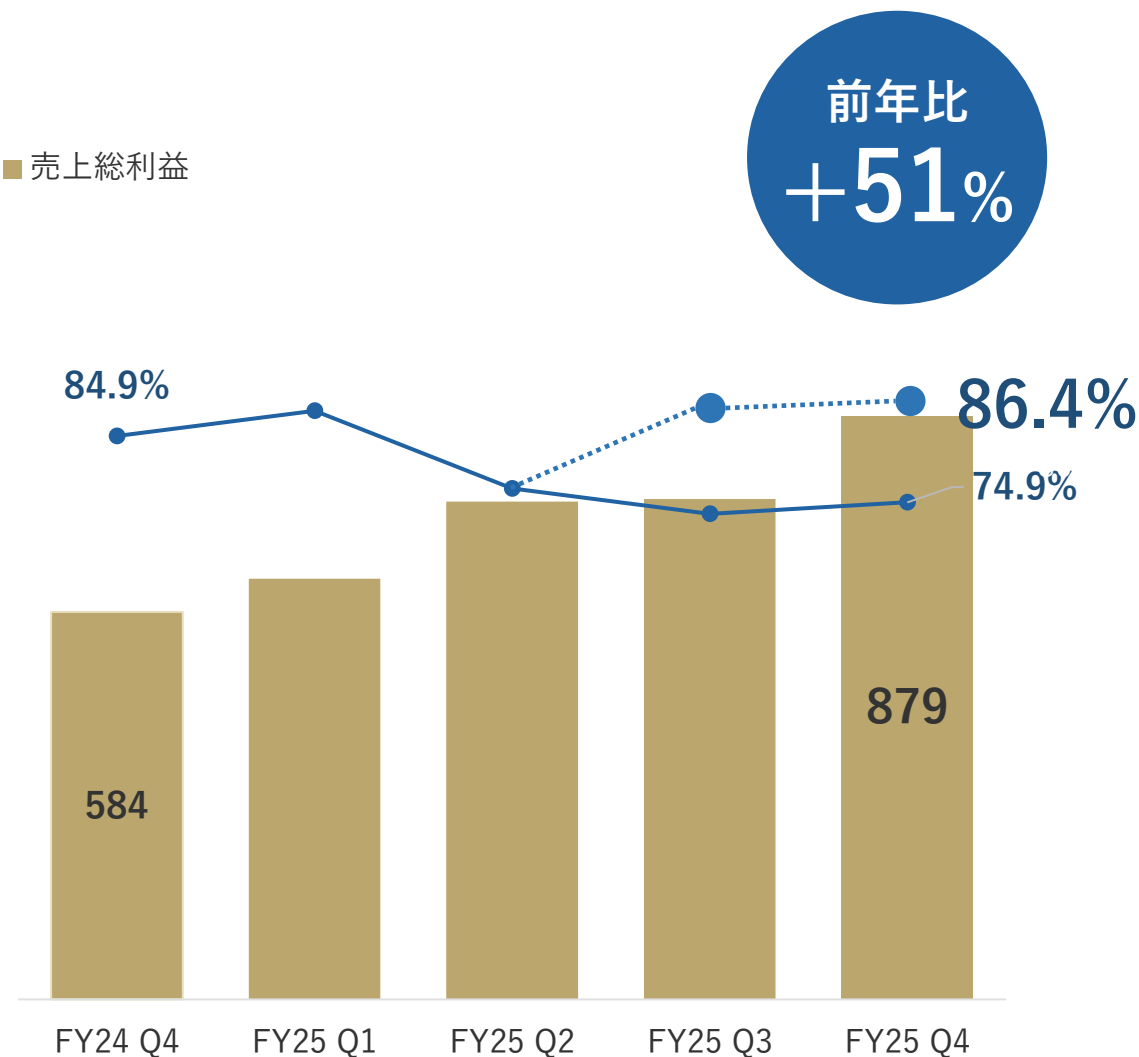


2025年11月期 第4四半期業績 売上総利益について

売上総利益は**879百万円**で、前期比**+51%**の増加。

売上総利益率はポラリファイの連結取込の影響で、**74.9%**に低下も、同案件を除いた場合の売上総利益率は**86.4%**と前年同期比で改善。

■ 売上総利益



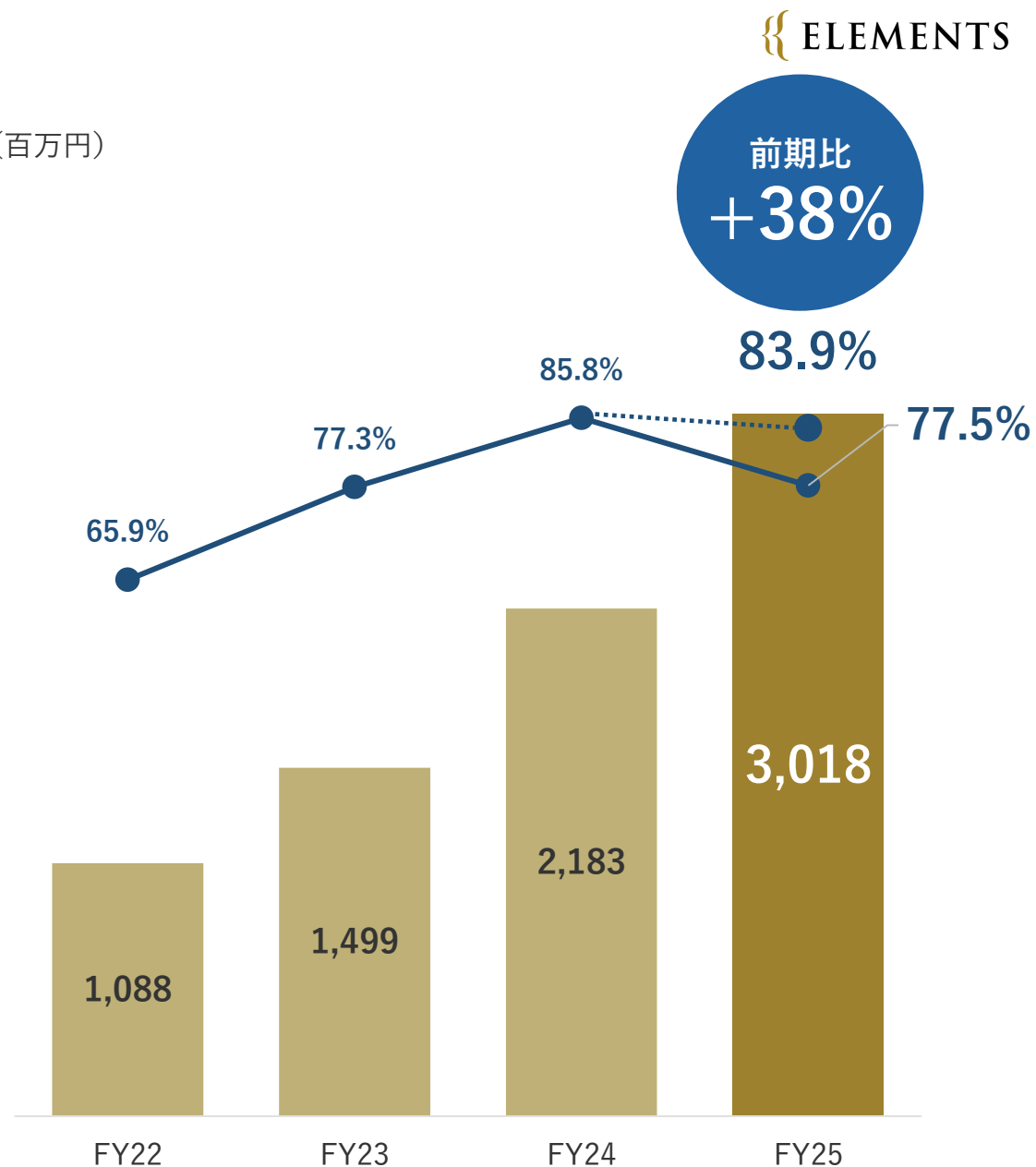
2025年11月期 通期業績 売上総利益について

2025年11月期通期の売上総利益は3,018百万円と
前期比で+38%の成長を達成。

売上総利益率はポラリファイの連結取込の影響で、
77.5%に低下も、同案件を除いた場合の売上総利
益率は83.9%と前期比でほぼ同水準。

ポラリファイの売上総利益率は、ライセンス契約
の切替（2026年9月）により大きく改善予定。
決算期相違の影響により、2026年Q4から改善が開
始し、2027年11月期のQ1からは前期とほぼ同水準
に回復する見立て。

(百万円)

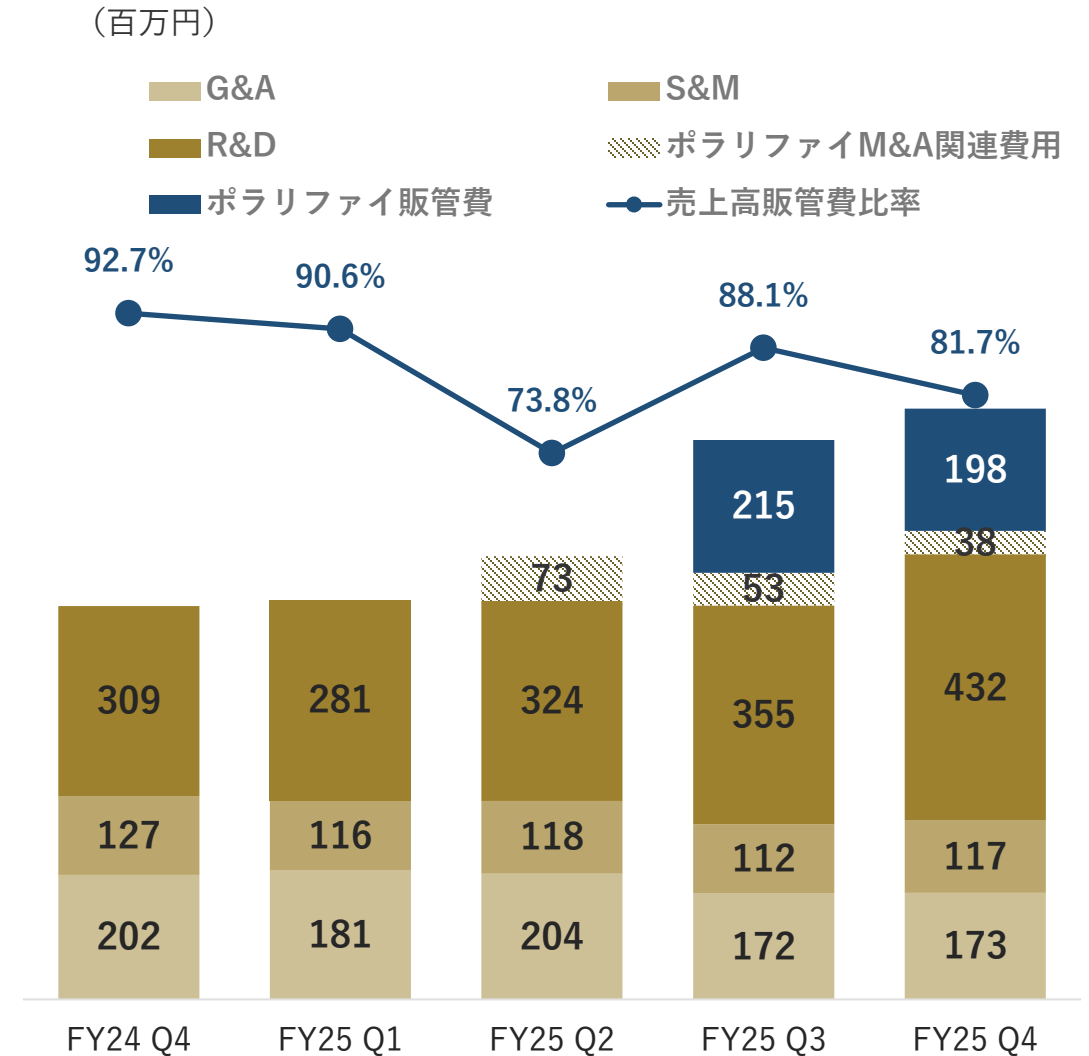


2025年11月期 第4四半期業績

販売費および一般管理費について

ポラリファイの連結化による販管費の追加（198百万円）に加え、ポラリファイM&A関連費用（38百万円）^(*)の計上、及び一過性の費用発生等を背景に、販売費および一般管理費の合計は**958百万円**に増加したものの、売上高販管費率は**81.7%**と前年同期比**▲11%**にて着地。

ポラリファイM&A関連費用は、のれん償却額のみ発生見込み。ポラリファイ販管費も、通信費・人件費を中心に低減していく見立て。



(1) 下記で区分しております。監査法人による監査及びレビューを受けた数値ではありません。
 S&M = Sales and Marketingの略。販売促進に係る広告宣伝費、営業人員の人件費および関連する経費
 R&D = Research and Developmentの略。開発に係るエンジニアの人件費や関連する経費
 G&A = General and Administrativeの略。コーポレート部門の人件費や関連する経費

*1 PMI関連費用および決算期の相違に伴う一時費用、並びにのれん償却額の合計

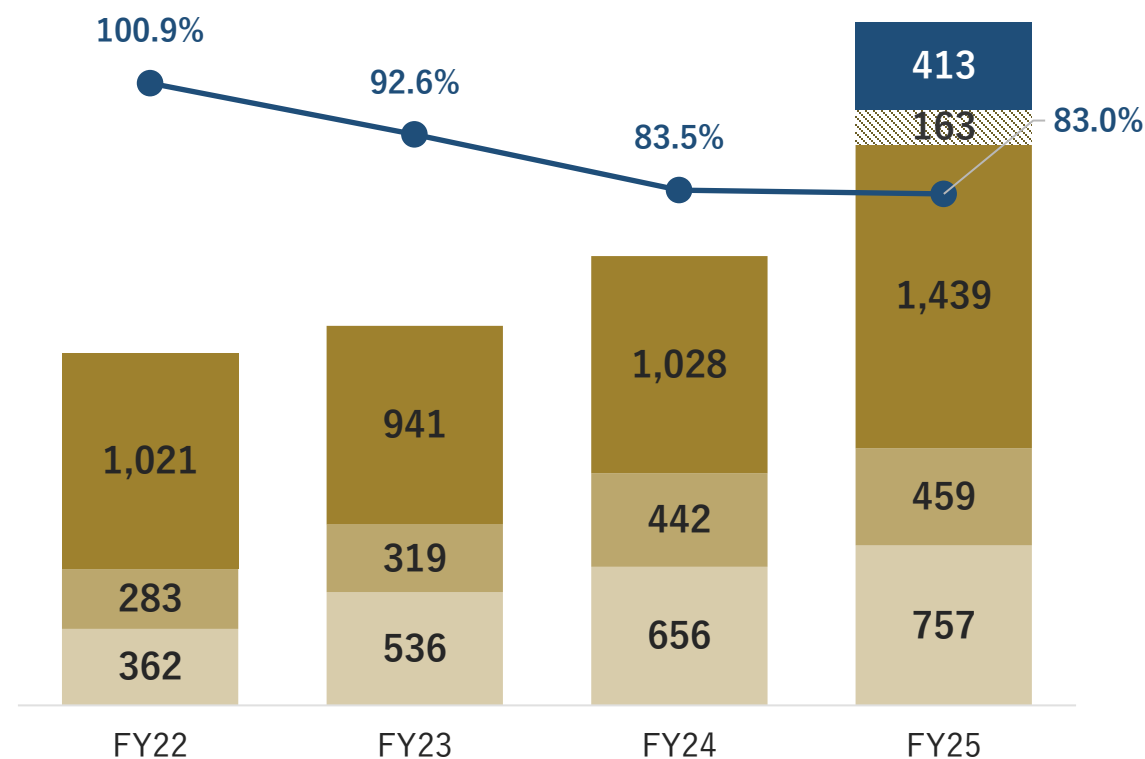
2025年11月期 通期業績

販売費および一般管理費について

2025年11月期通期の販売費および一般管理費はポラリファイ連結子会社化、人員増等で前期比で増加も、売上高販管費率は**83.0%**と前期比でほぼ同水準にて着地。

(百万円)

G&A
 R&D
 ポラリファイ販管費
 S&M
 ポラリファイM&A関連費用
 売上高販管費比率



(1) 下記で区分しております。監査法人による監査及びレビューを受けた数値ではありません。
 S&M = Sales and Marketingの略。販売促進に係る広告宣伝費、営業人員の人件費および関連する経費
 R&D = Research and Developmentの略。開発に係るエンジニアの人件費や関連する経費
 G&A = General and Administrativeの略。コーポレート部門の人件費や関連する経費

*1 PMI関連費用および決算期の相違に伴う一時費用、並びにのれん償却額の合計

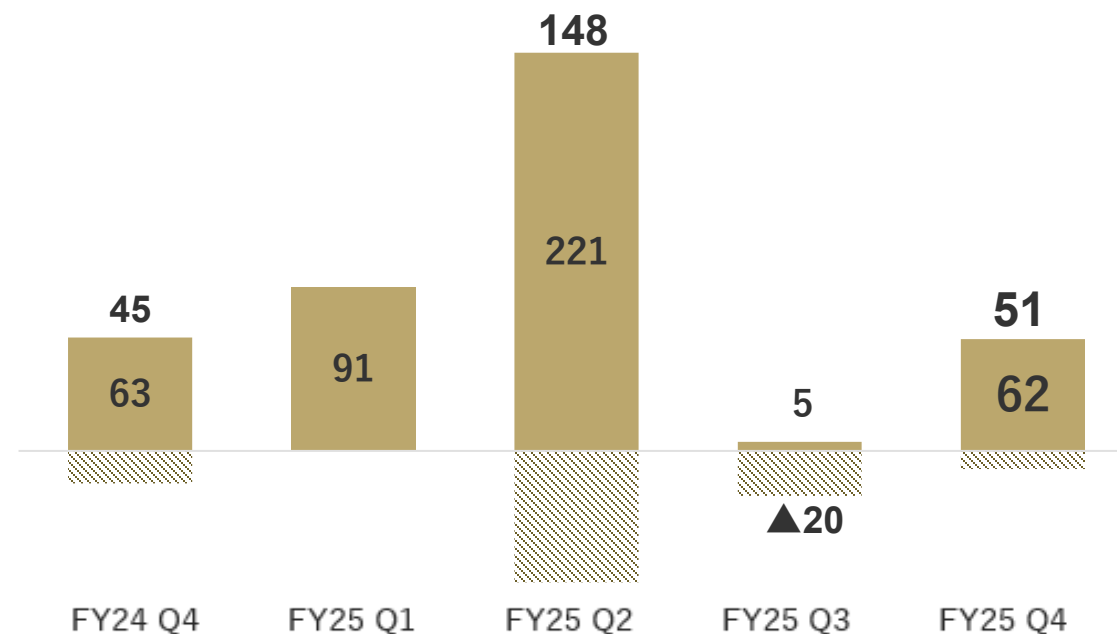
2025年11月期 第4四半期業績 EBITDAの推移

EBITDA^(*1)は前年同期比+6百万円の51百万円で着地。

ポラリファイM&A関連費用を除いたEBITDAは62百万円での着地。

(百万円)

■ 連結 ■ ポラリファイM&A関連費用



*1 EBITDA=営業利益+減価償却費（有形・無形固定資産）+株式報酬費用+のれん償却額

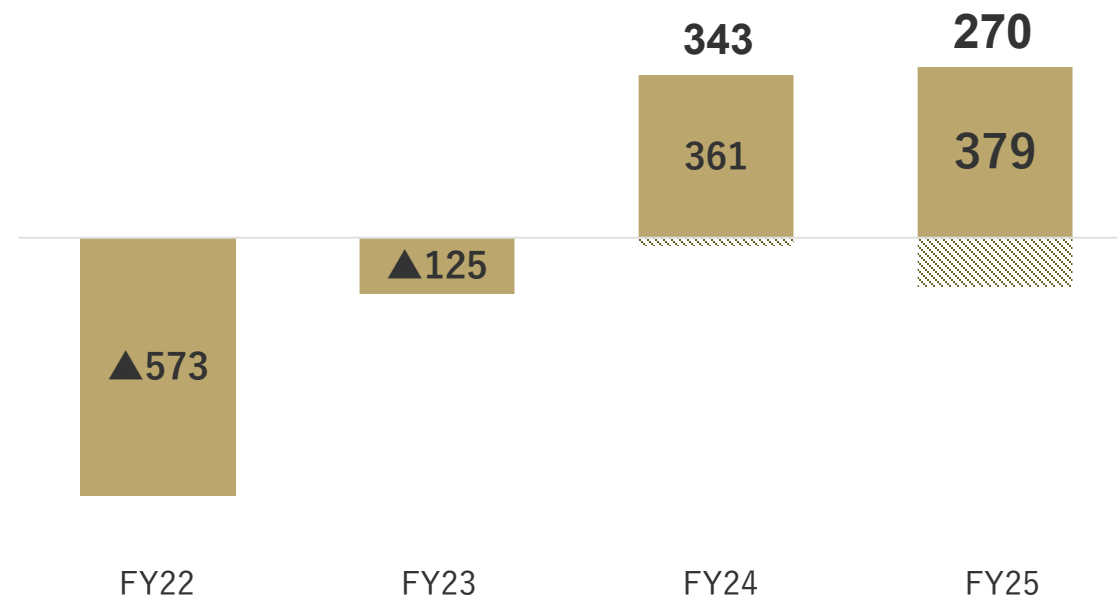
2025年11月期 通期業績 EBITDAの推移

2025年11月期通期のEBITDA^(*1)は
前年同期比▲72百万円の270百万円で着地。

ポラリファイM&A関連費用を除いたEBITDAは
379百万円と前期比+18百万円での着地。

(百万円)

■ 連結 ■ ポラリファイM&A関連費用



*1 EBITDA=営業利益+減価償却費（有形・無形固定資産）+株式報酬費用+のれん償却額

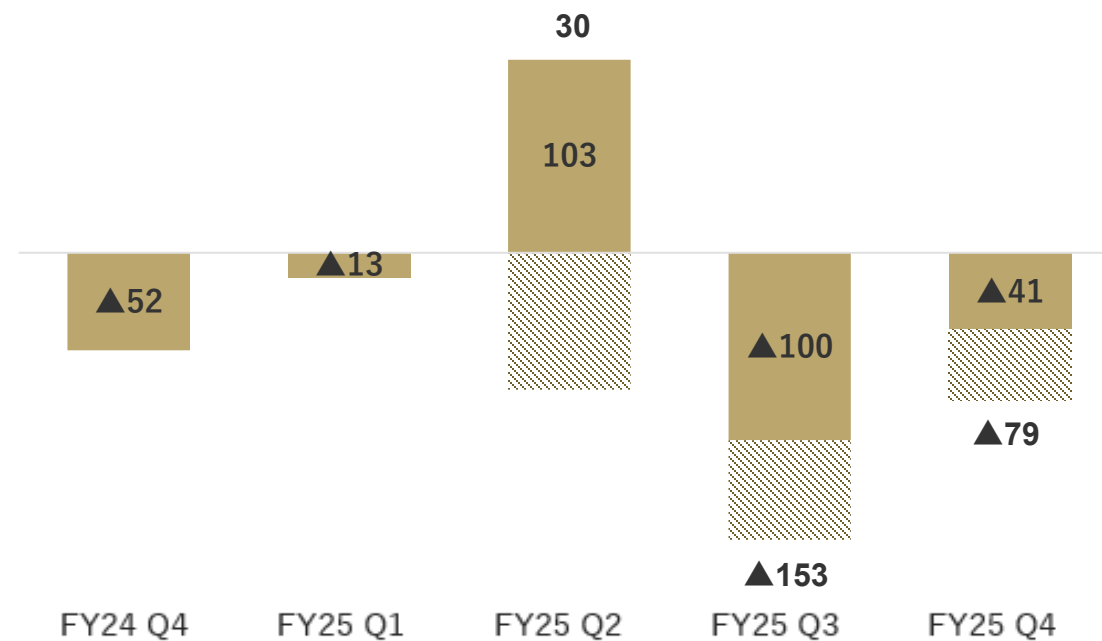
2025年11月期 第4四半期業績 営業利益の推移

営業利益は前年同期比▲27百万円の▲79百万円で着地。

ポラリファイM&A関連費用を除いた営業利益は前年同期比+11百万円の▲41百万円での着地。

(百万円)

■ 連結 ■ ポラリファイM&A関連費用



2025年11月期 通期業績 営業利益の推移

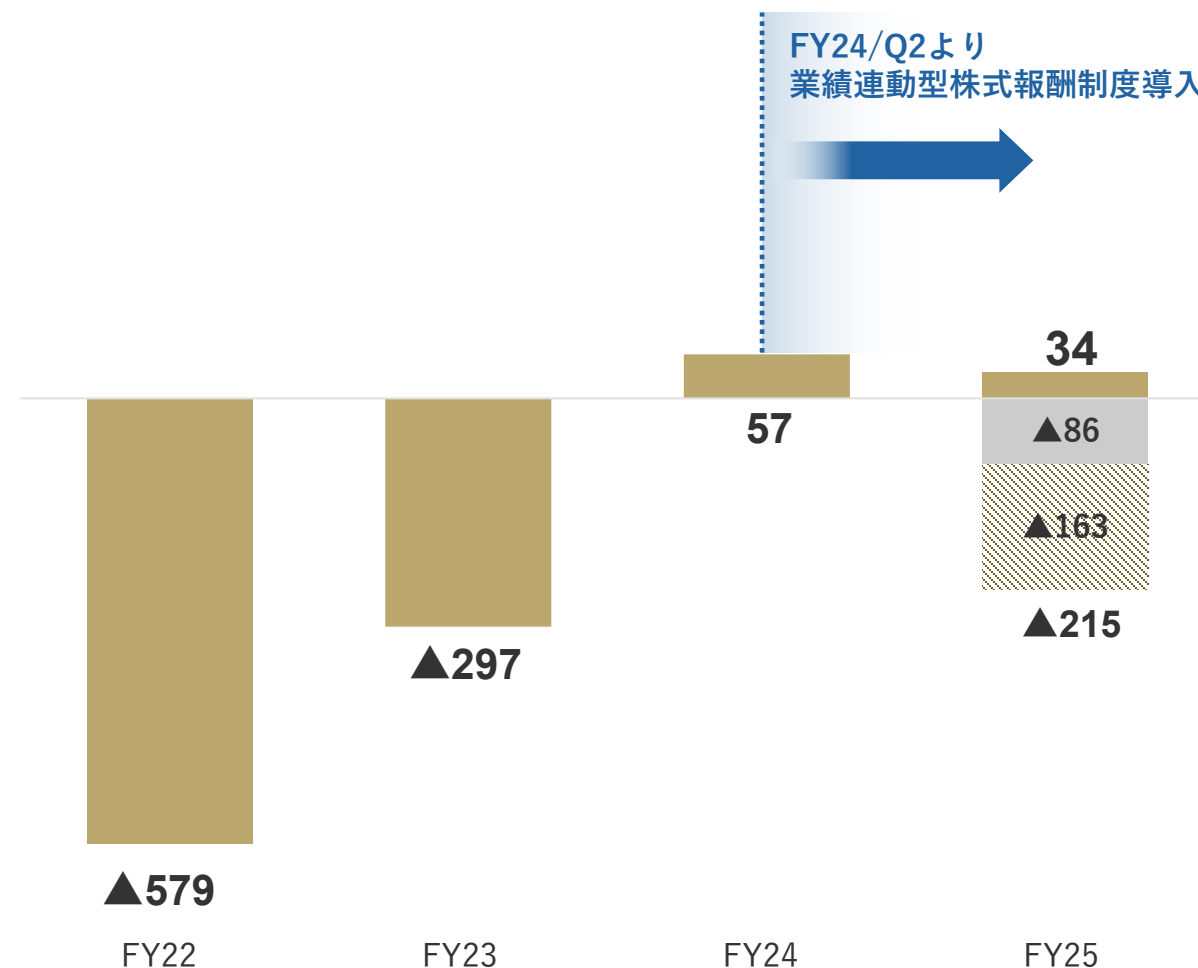
営業利益は前期比▲272百万円の▲215百万円で着地。

ポラリファイM&A関連費用・株式報酬費用の増加や一過性費用等の特殊要因を除いた実力値の営業利益は前期とほぼ同水準の34百万円での着地。

FY23/Q3よりソフトウェア資産計上を開始しており、減価償却費は増加していく見立て。

(百万円)

■ 連結 ※ ポラリファイM&A関連費用 ■ 特殊要因（一過性費用・株式報酬費用等）



2025年11月期 通期業績
連結貸借対照表

ポラリファイの買収資金の借入により現預金残高および借入残高が増加。
また、海外公募増資により株主資本と現預金が増加。
株主資本は32.0億円、純資産は35.8億円、自己資本比率は44.2%と健全な水準を維持。

【主要な増減項目】

- ① 現預金/短期借入金/長期借入金
ポラリファイの株式取得の借入実施
- ② 現預金/株主資本
海外公募増資により増加

(百万円)

FY24 期末

FY25 期末

	流動資産	3,207	4,495
① ②	うち、現預金	2,746	3,275 ↑
	うち、売掛金	392	757
	固定資産	1,710	2,744
	有形固定資産	245	322
	無形固定資産	1,252	2,200
	投資その他資産	213	221
	資産合計	4,917	7,239
	流動負債	707	1,845
①	うち、短期借入金 ^(*1)	314	1,115 ↑
	固定負債	1,600	1,809
①	うち、長期借入金	1,221	1,611 ↑
	負債合計	2,308	3,654
	純資産	2,609	3,585
	新株予約権	187	271
②	株主資本	2,106	3,201 ↑
	非支配株主持分	316	112
	負債・純資産合計	4,917	7,239

*1 1年以内に返済期限が到来する長期借入金を含む

目次

2025年11月期 4Qおよび通期業績ハイライト

各種トピック

2026年11月期 事業方針

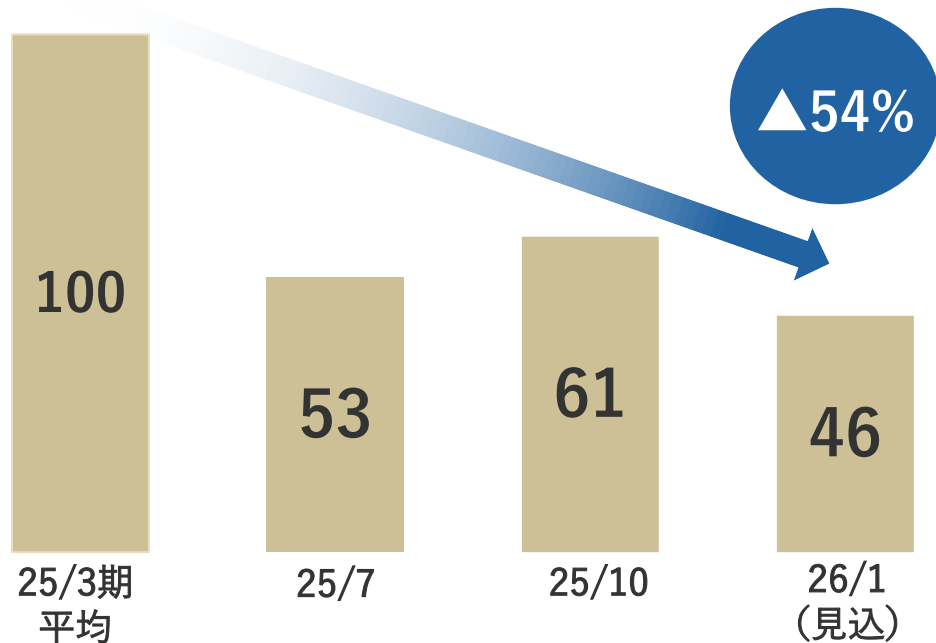
Appendix

ポラリファイのPMI進捗・今後の営業利益推移イメージ

- 買収完了後、主に通信費の削減および人員の効率化を実施
- 通信費は**約50%の削減**、人件費も**約40%の削減を達成見込み**。順調にコスト構造改革は進捗しており、顔認証エンジンの切替によりさらに削減見込み

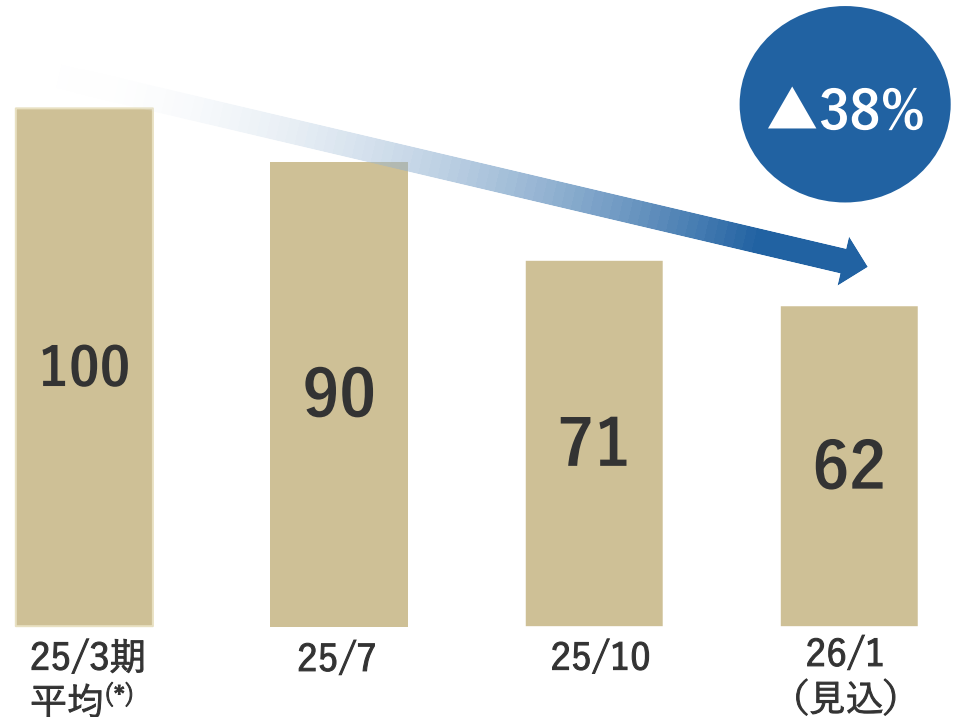
通信費

- ・ 顔認証エンジンの切替作業に伴い一時的に増加
- ・ 切替は順調に進行しており、今後は更なる削減を見込む



人件費

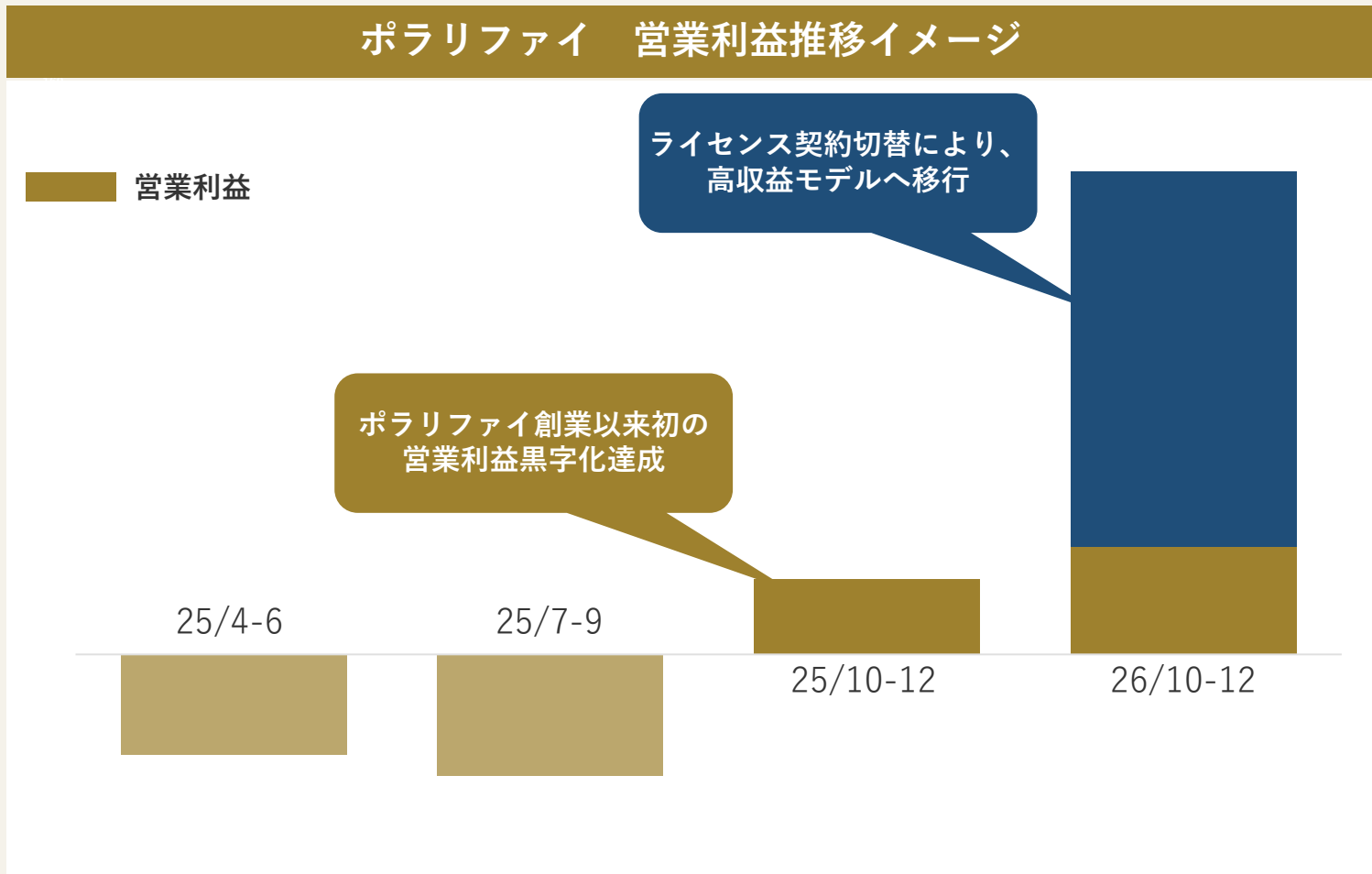
- ・ 2025年10月、12月に一部人員内製化・最適化等を実施



*買収前後での単価水準調整後、支払額ベース

ポラリファイのPMI進捗・今後の営業利益推移イメージ

- コスト構造改革により**2025年10月に営業利益黒字化を達成**し、継続的な利益体質への転換を実現。
- 2026年9月のライセンス契約切替を契機に、高収益モデルへと大きく変化を遂げる見立。



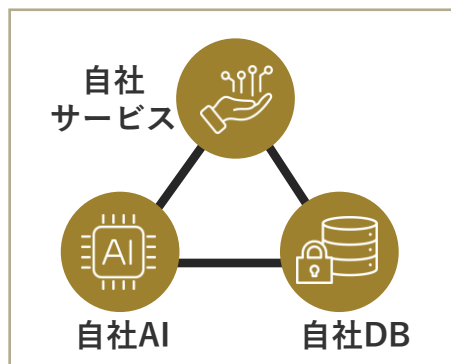
ライセンス契約切替詳細

- 本ライセンス契約は既に締結済。2026年9月に契約切替は確実に実現される
 - ✓ ポラリファイは2か月ズレての収益取り込みとなる為、2026年11月期への影響は限定的であり、2027年Q1より大きく収益改善見込み
- ライセンス契約の対象となるサービスが契約切替により縮小される
 - ✓ ライセンス切替に備え、顔認証エンジン切替を推進中であり、順調に切替が進行中
 - ✓ 縮小後もパスキー（FIDO2）を用いた「多要素認証ソリューション」に係るサービスは提供可能

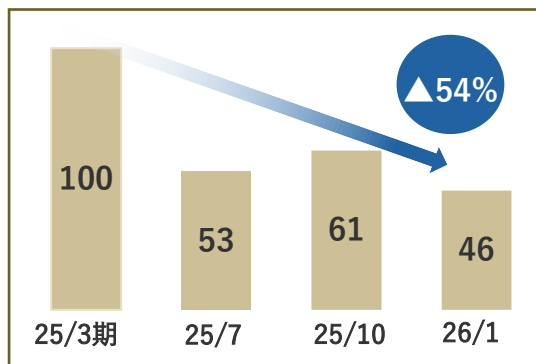
経産省傘下の産業技術総合研究所（産総研）との共同プロジェクト

- 認証事業で培ってきた、GPU活用の効率化ノウハウを最大限活用し、GPU効率の高い仕組みを自社開発
- 当該ノウハウを活かし、**経産省傘下の産業技術総合研究所（産総研）との共同プロジェクト**により、様々なAI活用ユースケースにおけるAI用計算資源の高度化に向けたベンチマークセットの開発実施が決定
- 本取組みにより、**様々なユースケースにおけるAI利活用の効率化ノウハウがさらに蓄積**し、それを活かした認証事業の利益率向上や差別化に加え、自社GPUデータセンターの差別化に繋げていく

認証事業の強みを活かしたGPUクラウド事業の展開



- 1.5億件超のAI処理実績
- 自社AI開発によるGPU効率化ノウハウ



- 当該ノウハウにより、ポラリファイPMIでも早期の通信費削減を実現



- 多様なユースケースにおけるAI活用時のGPU効率化を追求し、そのノウハウを蓄積していくことで、認証事業や自社DC事業の差別化要素にしていく

アドメディカ社の解散に係る株主資本への影響

- 顧客関連資産の減損で**152百万円の特別損失**が発生（法人税等調整額等により、株主資本減少額は70百万円）
- アドメディカ社株式の**買収価格の（減額）調整により特別利益が116百万円発生**
- 上記が相殺され、**株主資本への影響額は46百万円のプラス**

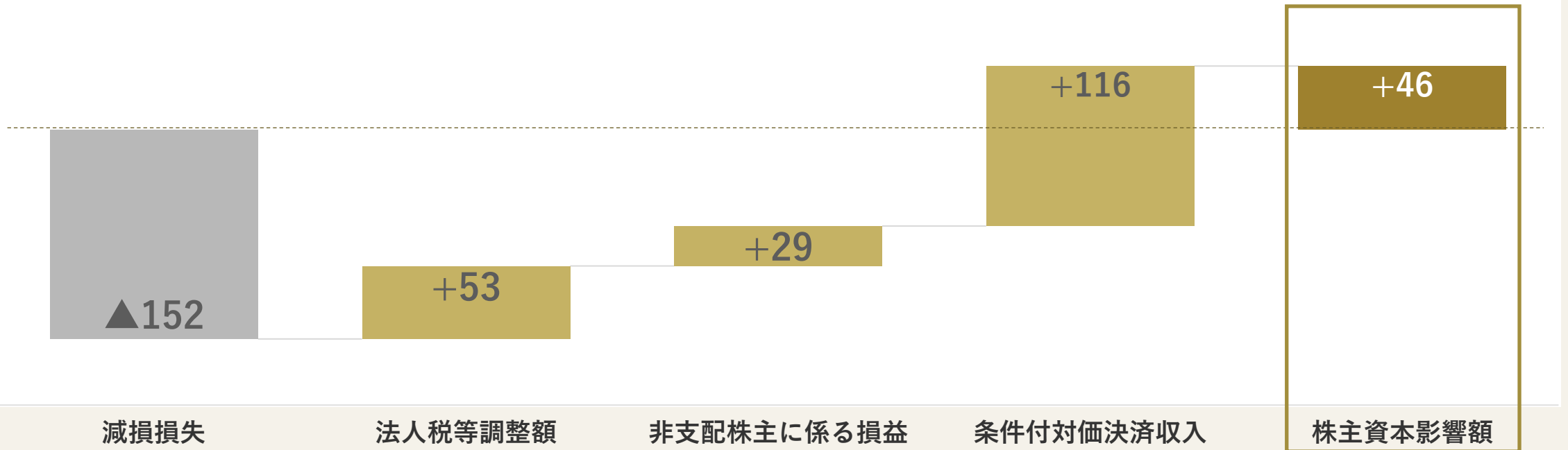
（百万円）

解散に係る株主資本への影響

①顧客関連資産の減損（株主資本減少額：▲70百万円）

②買収価格の調整

③株主資本への影響



目次

2025年11月期 4Qおよび通期業績ハイライト

各種トピック

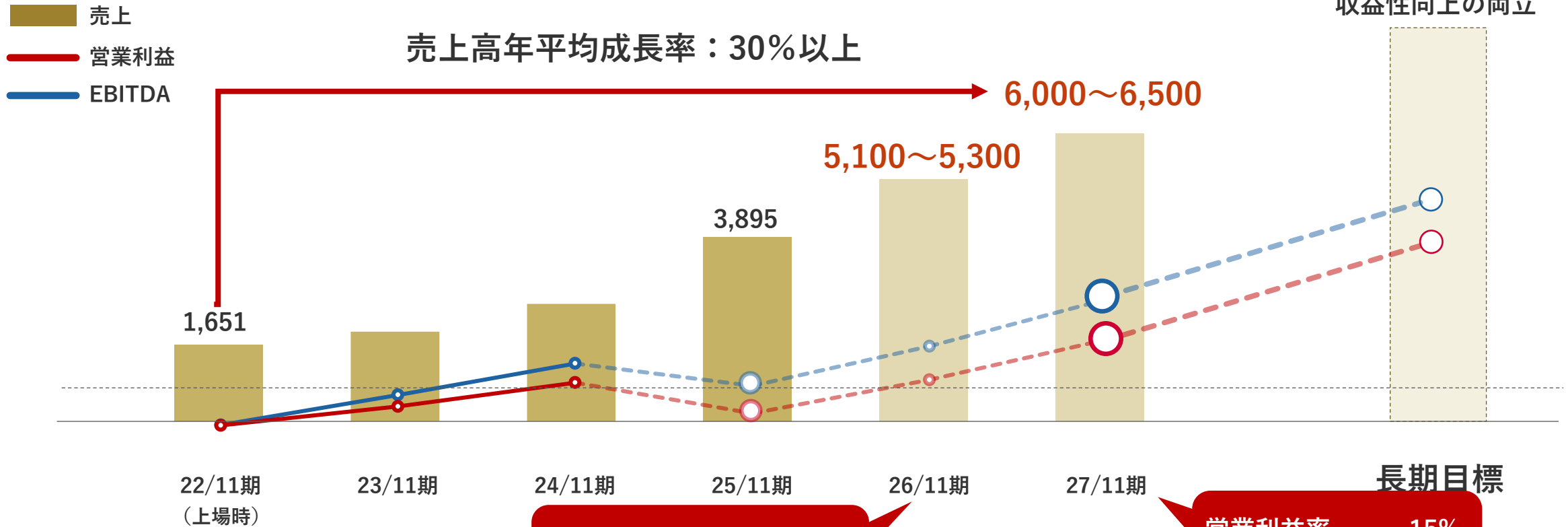
2026年11月期 事業方針

Appendix

中期財務目標と2026年11月期の位置づけ

- 2027年11月期の財務目標として、売上60億～65億円、営業利益率15% EBITDAマージン25%を設定
- 売上については、上場後5年の年平均成長率で30%以上となる水準を目標とする。

(百万円)



中期財務目標の達成に向けた増収・通期営業黒字の達成

営業利益率 15%
EBITDAマージン 25%

2025年7月14日開示

中期財務目標と2026年11月期の位置づけ

● 2026年11月期は、中長期的な利益拡大を最大化するための助走時期として位置づけ。

長期目標		<ul style="list-style-type: none"> ● グループミッション Beyond Science Fictionの実現 ● IoTクラウドを通じた社会課題の解決
中期方針		<ul style="list-style-type: none"> ● 継続的な投資と成長を可能とする仕組の構築 <ul style="list-style-type: none"> ← 高水準の売上高成長の実現（売上成長率：+30%）による営業CFの創出 ← 資本構成の最適化に向けた取組の実施
2026年11月期 方針	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 中期的な利益拡大を最大化するための助走時期としての位置づけ <ul style="list-style-type: none"> ・ LIQUIDシリーズにおける高付加価値ソリューション拡大とポラリファイのPMI ・ 「第2の柱」として位置付けるプロダクトへの投資継続
	財務目標 ⁽¹⁾	<ul style="list-style-type: none"> ● 全社売上： 5,100～5,300百万円 （対前年比：+30%～36%） ● 個人認証売上高： 5,075～5,275百万円 （対前年比：+31%～36%） ● EBITDA： 800～1,000百万円 （対前年比：+195%～269%） ● 営業利益： 0～200百万円 （営業黒字への回復）

*1 EBITDA=営業利益+減価償却費（有形・無形固定資産）+株式報酬費用+のれん償却額

2026年11月期通期業績予想

● 売上高は30%成長を維持。営業利益の黒字回復を実現させる。

	2025年11月期 通期	2026年11月期 通期業績予想	(前年同期比)
売上高	3,895	5,100～5,300	+30%～36%
売上総利益	3,018	3,900～4,050	+29%～34%
販売費および 一般管理費	3,233	3,850～3,900	+19%～20%
EBITDA ⁽¹⁾	270	800～1,000	+195%～269%
営業利益	▲215	0～200	-
親会社株主に帰属 する 当期純利益	▲700	▲100～100	-

*1 EBITDA=営業利益+減価償却費（有形・無形固定資産）+株式報酬費用+のれん償却額

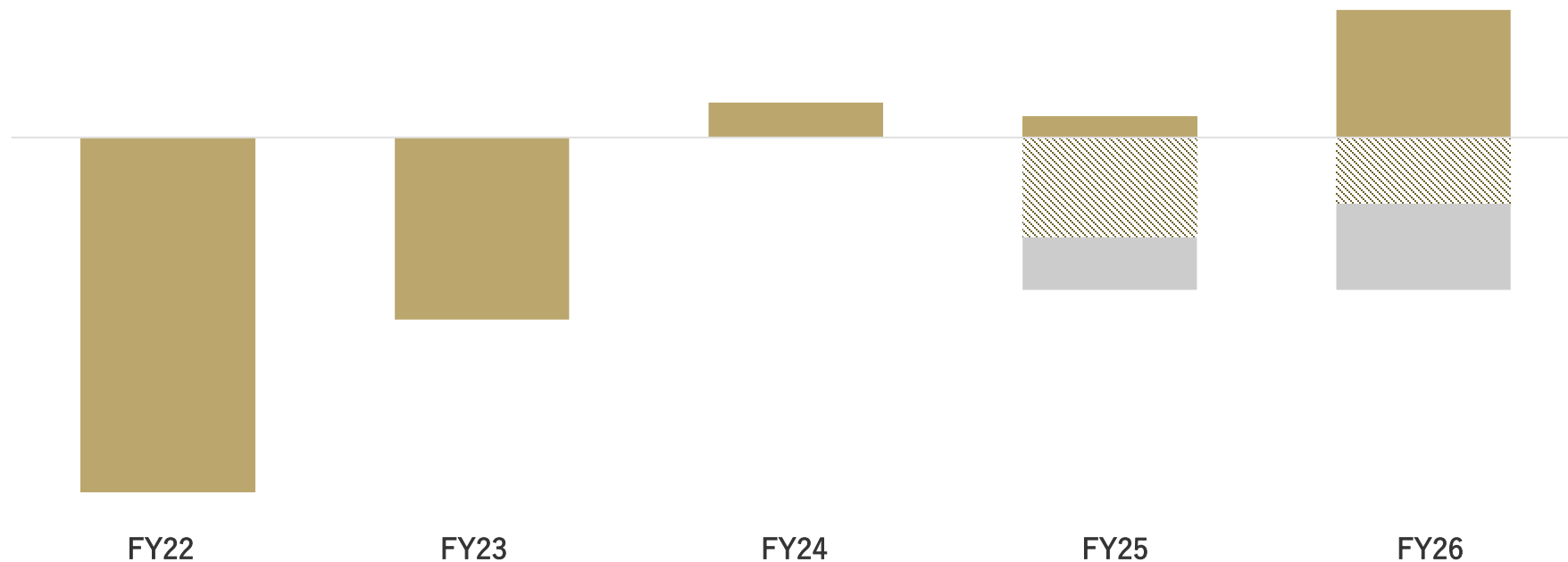
*2 データセンターに係る影響は、進捗状況を勘案し業績予想には含まず。事業の進捗に応じ、適切に情報開示いたします。

2026年11月期通期業績予想_営業利益イメージ

- 2026年11月期のポラリファイM&A関連費用はのれん償却額が発生
- 2026年11期も一過性費用や株式報酬費用の増加等の特殊要因は発生するものの、営業利益の黒字回復を実現させる。

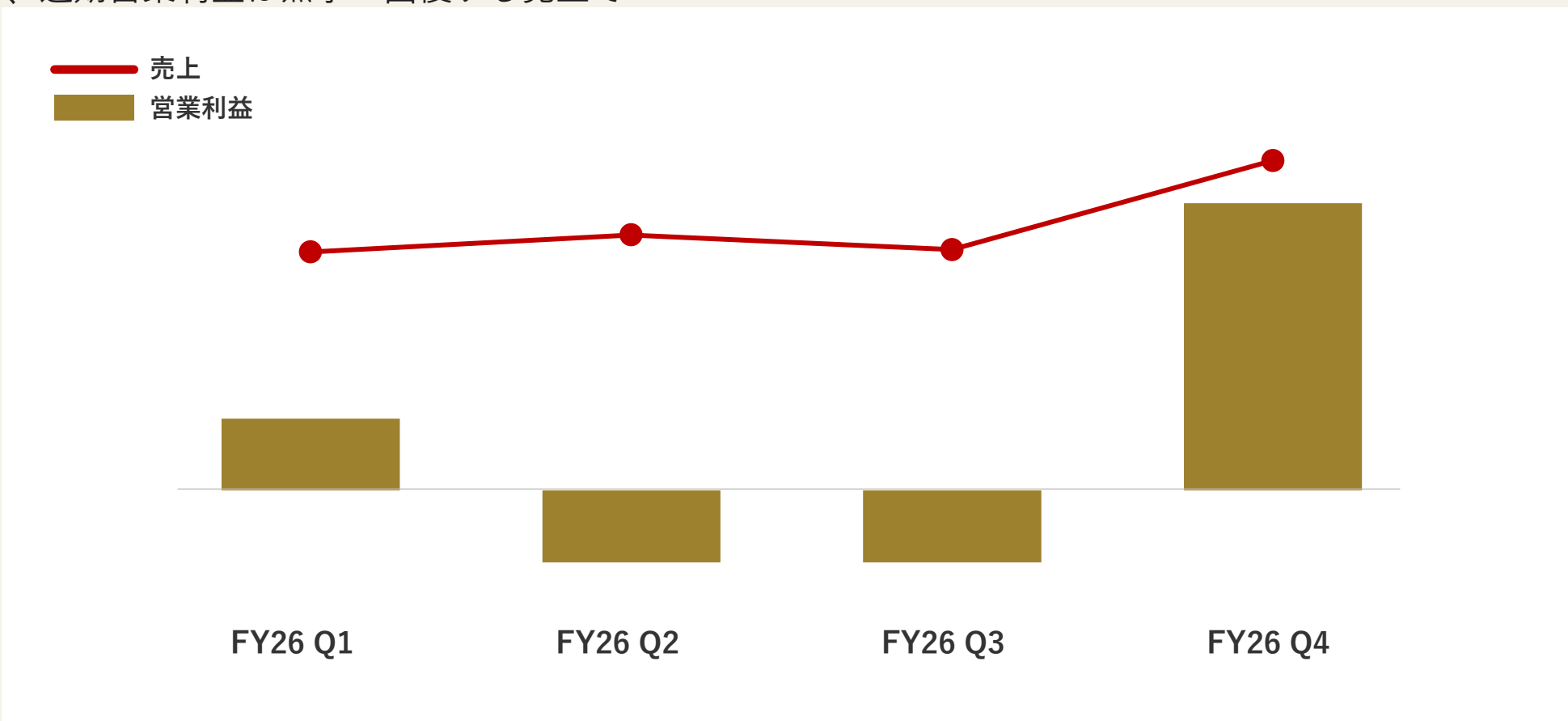
(百万円)

■ 連結 ▨ ポラリファイM&A関連費用 ■ 特殊要因（一過性費用・株式報酬費用等）



2026年11月期通期業績予想_四半期別営業利益のイメージ

- Q1は季節的に売上が弱いですが、ポラリファイの収益改善及び一過性費用の剥落を主因に、本四半期比で改善する見込み。
- Q2～3は積極的に投資を行い一時的に収益は悪化するものの、Q4には投資も一巡し、季節性の影響等で利益が改善。
- 結果として、通期営業利益は黒字へ回復する見立て



目次

2025年11月期 4Qおよび通期業績ハイライト

各種トピック

2026年11月期 事業方針

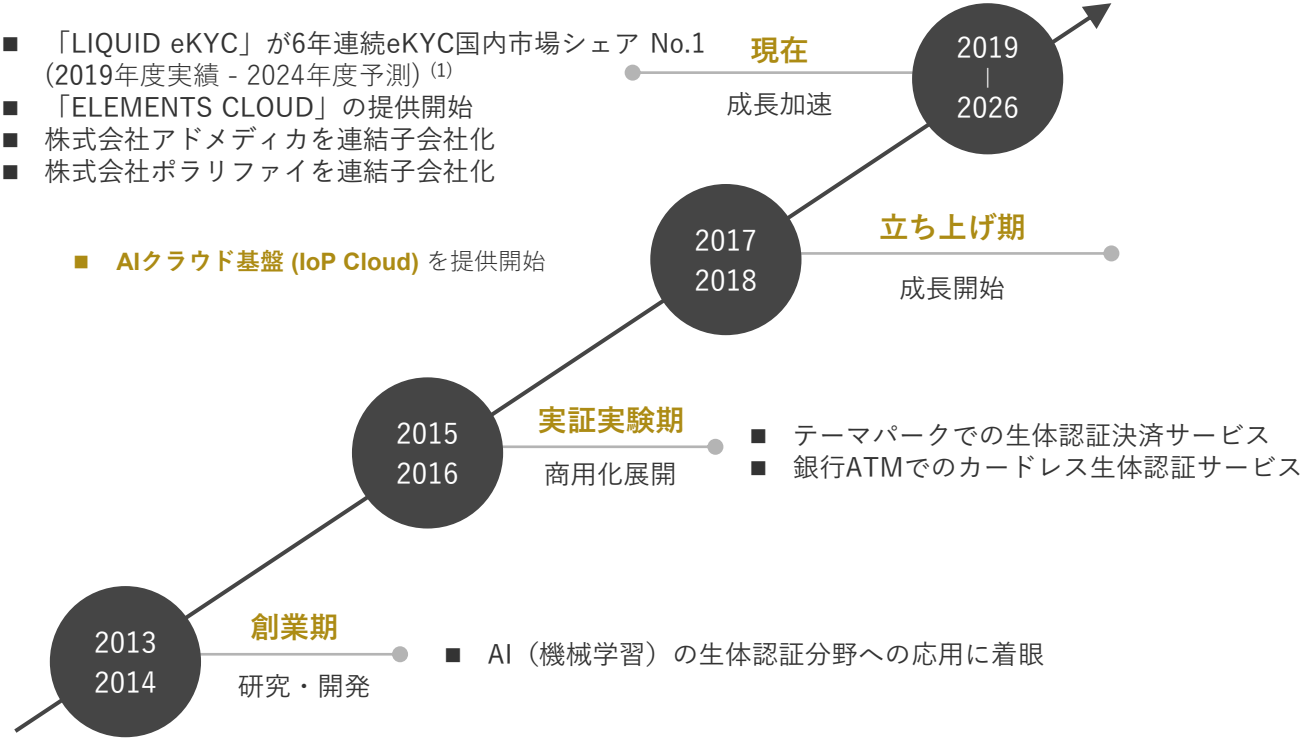
Appendix

会社概要とこれまでの歩み

会社概要

会社名	株式会社ELEMENTS ELEMENTS, Inc.	
設立	2013年12月	
代表取締役	代表取締役会長 久田 康弘 代表取締役社長 長谷川 敬起	
グループ会社	株式会社Liquid、X PLACE株式会社 株式会社アドメディカ、株式会社ポラリファイ 株式会社ELEMENTS CLOUD四国 株式会社IDEAL、PT. Indoliquid Technology Sukses	
従業員数	103名（2025年11月末、連結） ※正社員および有期雇用人員の合計	
事業内容	・生体認証・画像解析・機械学習技術を活用した 個人認証ソリューション、衣食住における個人最適化ソリューション、並びに個人情報を管理するクラウドサービスの開発・提供	
受賞・採択	・総務省 「ICTイノベーション創出チャレンジプログラム」 ・経済産業省・総務省 「IoT Lab Selection」第1回グランプリ ・独立行政法人中小企業基盤整備機構 「Japan Venture Awards 2018」JVA審査委員長賞 ・一般社団法人東京ニュービジネス協議会 「第17回 IPO大賞」 ・「日本スタートアップ大賞総務大臣賞」	

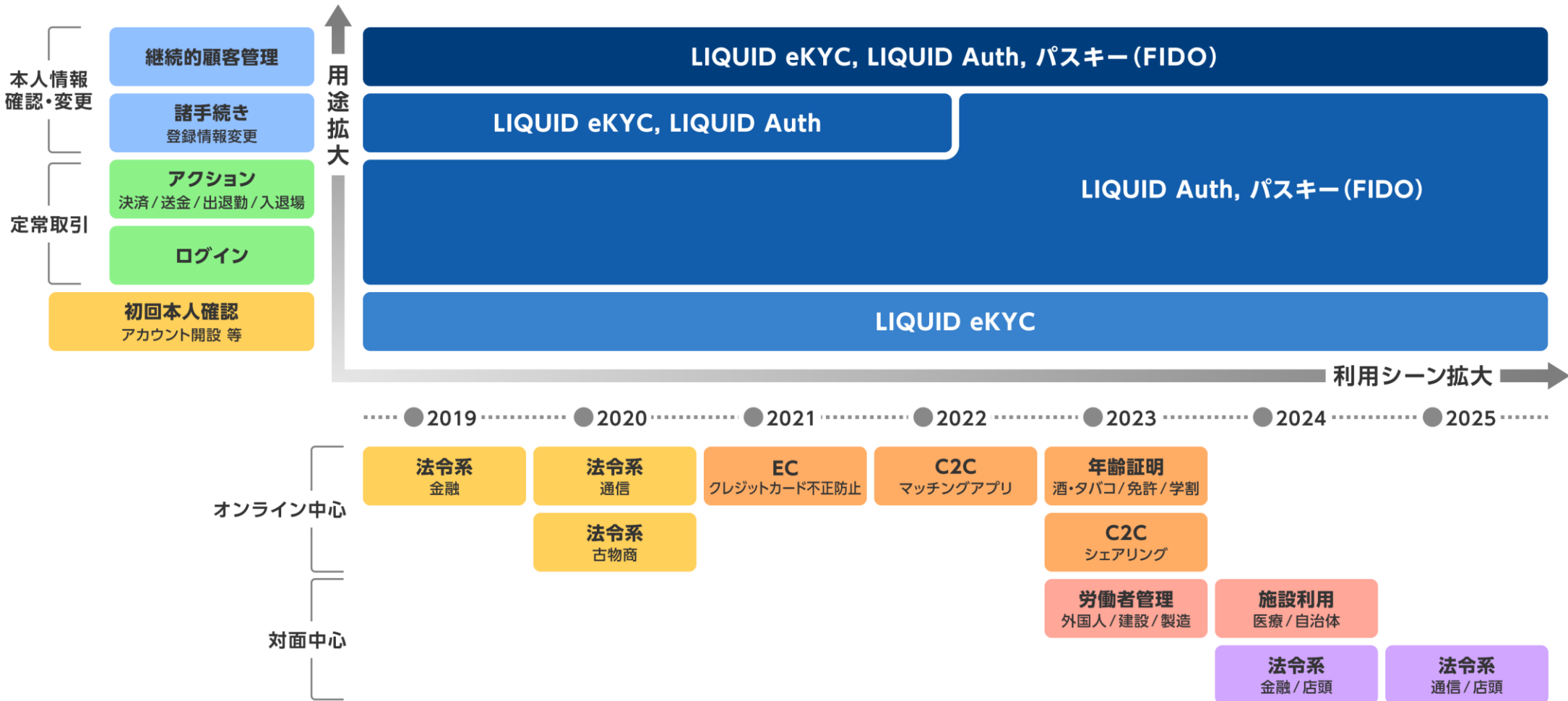
これまでの歩み



(1) ITR「ITR Market View：アイデンティティ・アクセス管理 / 個人認証型セキュリティ市場 2025」
eKYC市場：ベンダー別売上金額シェア（2019年度実績～2024年度予測）

個人認証ソリューションの利用シーンと利用用途の拡大

- サービス開始当初は「一般ユーザーのオンライン上の口座開設での本人確認」が中心だったが、住所変更等の諸届や、オフラインでの口座開設等、一般ユーザーの利用シーン拡大に加え、労働者管理等B2B領域での導入事例も増加傾向



本資料の取り扱いについて

- 本資料は、情報提供のみを目的として作成しています。
- 本資料は、日本、米国、その他の地域における有価証券の販売の勧誘や購入の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これら将来の見通しに関する記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予測に関する記述には、既知および未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。
- 上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内および国際的な経済状況の変化や、当社グループが事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限られるものではありません。
- また、当社グループ以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社グループはそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証していません。

Mission

BEYOND SCIENCE FICTION